

阪口正二郎名誉教授 著作目録

I 著書（単著）

- 2001年 『立憲主義と民主主義』（日本評論社）（博士号の学位請求論文）
 2005年 『立憲主義の展望』（自由人権協会）

II 著書（共編著・共著・監訳書など）

- 2003年 山崎広明・平島健司・阪口正二郎・粕谷誠・濱井修『現代社会』（山川出版社）
- 2004年 長谷部恭男・中島徹・赤坂正浩・阪口正二郎・本秀紀編『ケースブック憲法』（弘文堂）
- 2007年 長谷部恭男・中島徹・赤坂正浩・阪口正二郎・本秀紀編『ケースブック憲法（第2版）』（弘文堂）
 内藤正典・阪口正二郎編『神の法 vs. 人の法』（日本評論社）（「リベラル・デモクラシーにとってのスカーフ問題」30頁を執筆）
 阪口正二郎責任編集『岩波講座 憲法5 グローバル化と憲法』（岩波書店）（「多様性の中の立憲主義と「寛容のパラドクス」」69頁を執筆）
 山崎広明・平島健司・阪口正二郎・粕谷誠・濱井修『現代社会（新版）』（山川出版社）
 山崎広明・平島健司・阪口正二郎・粕谷誠『詳説政治・経済』（山川出版社）
- 2010年 長谷部恭男・中島徹・赤坂正浩・阪口正二郎・本秀紀編『ケースブック憲法（第3版）』（弘文堂）
 阪口正二郎責任編集『自由への問い3 公共性』（岩波書店）（「異論の窮境と異論の公共性」21頁を執筆）
 浦田一郎・加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人・松田浩編『立憲平和主

- 義と憲法理論（山内敏弘先生古希記念）』（法律文化社）（「司法支配制と日本の特殊な違憲審査制」202頁を執筆）
- 2011年 芹沢齊・市川正人・阪口正二郎編『新基本法コンメンタール憲法』（日本評論社）（「第20条」159頁を執筆）
- 2013年 長谷部恭男・中島徹・赤坂正浩・阪口正二郎・本秀紀編『ケースブック憲法（第4版）』（弘文堂）
- 2014年 山崎広明・平島健司・阪口正二郎・粕谷誠『詳説政治・経済』（山川出版社）
- 2017年 長谷部恭男編、川岸令和・駒村圭吾・阪口正二郎・宍戸常寿・土井真一『注釈日本国憲法（2）』（有斐閣）（「第21条」338頁を執筆）
- 阪口正二郎・毛利透・愛敬浩二編『なぜ表現の自由か』（法律文化社）（「表現の自由はなぜ大切か」3頁、「犯罪加害者と表現の自由」211頁を執筆）
- 阪口正二郎・江島晶子・只野雅人・今野健一編『憲法思想と発展（浦田一郎先生古希記念）』（信山社）（「違憲審査基準について」669頁を執筆）
- 2018年 阪口正二郎・愛敬浩二・青井未帆編『憲法改正をよく考える』（日本評論社）（「改憲論と「生ける憲法」」33頁、「憲法尊重擁護義務と立憲主義」209頁を執筆）
- 2020年 長谷部恭男編、川岸令和・駒村圭吾・阪口正二郎・宍戸常寿・土井真一『注釈日本国憲法（3）』（有斐閣）（「第42条」502頁、「第44条」568頁、「第45条」582頁、「第46条」585頁、「第47条」588頁、「第48条」600頁を執筆）
- ブルース・アッカマン（川岸令和・木下智史・阪口正二郎・谷澤正嗣監訳）『アメリカ憲法理論史——その基底にあるもの』（北大路書房）
- 加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人編『フォーカス憲法——事例から学ぶ憲法基盤』（北樹出版）（「憲法文献案内」339頁を執筆）

Ⅲ 論文

- 1985年 「合衆国における「憲法」解釈論争に関する一考察」 修士論文（早稲田大学大学院法学研究科）
- 1987年 「合衆国における行政権と公益——熟慮の行政観の出現とその問題点」 早稲田大学大学院法研論集 43号 159頁
- 1988年 「実体的価値としての憲法と司法審査（1）——合衆国司法審査論争ノート」 早稲田大学大学院法研論集 46号 111頁
- 1990年 「政治過程と司法審査——Taking Democracy Seriously」 社会科学研究 42巻3号 115頁
- 1991年 「第一次大戦前の合衆国における表現の自由と憲法学（1）——表現の自由の優越的地位形成過程の歴史研究序説」 社会科学研究 43巻4号 1頁
- 1992年 「第一次大戦前の合衆国における表現の自由と憲法学（2）——表現の自由の優越的地位形成過程の歴史研究序説」 社会科学研究 43巻5号 109頁
「ロスコー・パウンドと表現の自由」 時岡弘先生古稀記念論文集刊行会編『人権と憲法裁判（時岡弘先生古稀記念）』（成文堂）183頁
- 1994年 「合衆国表現の自由理論の現在（1）——表現の自由の20世紀システムの動揺？」 社会科学研究 46巻1号 51頁
「差別的表現規制が迫る「選択」——合衆国における議論を読む」 法と民主主義 289号 40頁
「現代日本の企業法務と法学教育——会社主義と低位法化社会」 法の科学 22号 67頁
- 1995年 「表現の自由・市場・国家——表現の自由と国家の役割をめぐる最近の合衆国の議論から」 大須賀明編『社会国家の憲法理論』（敬文堂）27頁
「法の支配・裁判官と政治——日米の問題のありようの違いを中心に」 法律時報 67巻6号 24頁
「合衆国表現の自由理論の現在（2）——表現の自由の20世紀システム

の動揺?」社会科学研究 47巻1号 201頁

- 1997年 「憲法59条」(259頁)、「憲法60条」(262頁)、「憲法61条」(264頁)
小林孝輔・芹沢斉編『基本法コンメンタール憲法(第4版)』(日本評論社)
- 1998年 「立憲主義と民主主義(1)」法律時報70巻1号 47頁
「立憲主義と民主主義(2)」法律時報70巻2号 68頁
「立憲主義と民主主義(3)」法律時報70巻3号 95頁
「立憲主義と民主主義(4)」法律時報70巻4号 36頁
「立憲主義と民主主義(5)」法律時報70巻6号 109頁
「憲法をめぐる「守旧」と「改革」——アメリカにおける憲法改正をめぐる論争から」杉原泰雄・清水陸編『憲法の歴史と比較』(日本評論社) 91頁
「立憲主義と民主主義(6)」法律時報70巻7号 80頁
「立憲主義と民主主義(7)」法律時報70巻8号 70頁
「表現の自由をめぐる「普通の家」と「特殊な家」——合衆国における表現の自由法理の動揺の含意」東京大学社会科学研究所編『20世紀システム5 国家の多様性と市場』(東京大学出版会) 13頁
「立憲主義と民主主義(8)」法律時報70巻9号 79頁
「立憲主義と民主主義(9)」法律時報70巻10号 50頁
「立憲主義と民主主義(10)」法律時報70巻11号 58頁
「立憲主義と民主主義(11)」法律時報70巻12号 82頁
- 1999年 「立憲主義と民主主義(12)」法律時報71巻2号 70頁
「立憲主義と民主主義(13)」法律時報71巻3号 83頁
「立憲主義と民主主義(14)」法律時報71巻4号 90頁
「「国家・規制・市場」再考——ニューディール再考と憲法学の可能性」法律時報71巻6号 112頁
「憲法尊重擁護の義務」高橋和之・大石眞編『憲法の争点(第3版)』(有斐閣) 28頁
「立憲主義と民主主義(15)」法律時報71巻7号 96頁

- 「立憲主義と民主主義 (16)」法律時報 71 卷 8 号 93 頁
「立憲主義と民主主義 (17)」法律時報 71 卷 9 号 79 頁
- 2000 年 「リベラリズム憲法学と「国家の中立性」序説」法律時報 72 卷 12 号 97 頁
- 2001 年 「違憲審査制と「二つ」の世紀末」ジュリスト 1192 号 184 頁
- 2002 年 「芸術に対する国家の財政援助と表現の自由」法律時報 74 卷 1 号 30 頁
「戦争とアメリカの「立憲主義のかたち」」法律時報 74 卷 6 号 50 頁
「アメリカ憲法学における民主主義論の動向と立憲主義の動揺——ポピュリズム、共和主義、リベラリズム」憲法問題 13 号 112 頁
「民主主義と人権の関係——多数で決めるべき事柄と多数で決めてはならないもの」法学セミナー 47 卷 6 号 2 頁
「公教育と信教の自由——義務と自由の微妙な関係」法学セミナー 47 卷 6 号 16 頁
「アメリカ憲法学におけるある主題と変奏——「ニューディール再考」のその後」法律時報 74 卷 9 号 90 頁
「国旗・国歌と二つの愛国主義」山内敏弘編『有事法制を検証する』（法律文化社）217 頁
「アメリカにおける「差別的表現規制」問題の意義」子どもの人権と少年法に関する特別委員会（東京弁護士会）・子どもの権利に関する委員会（第二東京弁護士会）編『少年事件報道と子どもの成長発達権——少年の実名・推知報道問題を考える』（現代人文社）178 頁
- 2003 年 「リベラルな立憲主義における公教育と多様性の尊重」一橋法学 2 卷 2 号 447 頁
「リベラリズムと討議民主政」公法研究 65 号 116 頁
- 2004 年 「「自由からの逃走」と「自由のための闘争」——テロに対するリベラル・デモクラシーの闘い方」ジュリスト 1260 号 92 頁
「アメリカ憲法学とニューディール再考」樋口陽一・森英樹・高見勝利・辻村みよ子編『国家と自由』（日本評論社）15 頁
「リベラリズム憲法学の可能性とその課題」高橋和之・藤田宙靖編『憲

(204) 一橋法学 第22巻 第3号 2023年11月

法論集(樋口陽一先生古稀記念)』(創文社)585頁

2005年 「恐怖のグローバル化か、立憲主義のグローバル化か」法学セミナー50巻1号6頁

「立憲主義の展望」全国憲法研究会編『憲法改正問題(法律時報増刊)』(日本評論社)302頁

「立憲主義のグローバル化とアメリカ」ジュリスト1289号35頁

「立憲主義の展望——リベラリズムからの愛国心」自由人権協会編『憲法の現在』(信山社)355頁

“Constitutionalism & Democracy; Defending Constitutionalism in the Age of Terror”, Sung, Nak-in (ed.), *Constitutionalism and Constitutional Adjudication*, pp. 171-185, College of law, Seoul National University, Korea Legislative Research Institute

2006年 「最近のアメリカが考える「正しい戦争」——保守とリベラル」山内進編『「正しい戦争」という思想』(勁草書房)204頁

「憲法59条」(300頁)、「憲法60条」(303頁)、「憲法61条」(305頁) 小林孝輔・芹沢齊編『基本法コンメンタール憲法(第5版)』(日本評論社)

2007年 「ピラ配布判決が映し出す日本の立憲主義の現状」法律時報79巻8号27頁

2008年 「テロという危機の時代における「立憲主義」の擁護」藪下史郎監修、川岸令和編『立憲主義の政治経済学』(東洋経済新報社)161頁

「人権論Ⅱ・違憲審査基準の二つの機能——憲法と理由」法律時報80巻11号70頁(*)

「憲法尊重擁護の義務」大石眞・石川健治編『(新・法律学の争点シリーズ)憲法の争点』(有斐閣)32頁

2009年 「上昇する期待と下降する期待——「司法支配制」の評価をめぐって」棚瀬孝雄編『司法の国民的基盤——日本の司法政治と司法理論』(日本評論社)65頁

「表現の自由原理論における「公」と「私」——「自己統治」と「自

- 律」の間」長谷部恭男・中島徹編『憲法の理論を求めて——奥平憲法学の継承と展開』（日本評論社）39頁
- 「憲法から会社法へ——ささやかな応答」法律時報81巻5号39頁
- “Japan”, Markus Thiel (ed.) *The Militant Democracy Principle in Modern Democracies*, pp. 219-242, Ashgate
- 2010年 「表現の自由——表現の内容に基づく規制と定義づけ衡量の関係を中心に」法学教室357号27頁
- 「憲法上の権利と利益衡量——「シールド」としての権利と「切り札」としての権利」一橋法学9巻3号31頁
- 2011年 「人権論Ⅱ・違憲審査基準の二つの機能——憲法と理由」辻村みよ子・長谷部恭男編『憲法理論の再創造』（日本評論社）147頁（*を収録）
- 「ACのCMと「自粛」、作られる「安心」」法学セミナー56巻11号36頁
- 「憲法学と政治哲学の対話——リベラリズム、違憲審査基準、権利」公法研究73号42頁
- 2012年 「セイヤーの司法の自己抑制論再考」聖学院大学総合研究所紀要51号13頁
- 「憲法上の権利の制約類型を考える必要性について——直接的制約、付随的制約、間接的制約をめぐって」高橋滋・只野雅人編『東アジアにおける公法の過去、現在、そして未来』（国際書院）259頁
- 「比較の中の三段階審査・比例原則」樋口陽一・森英樹・高見勝利・辻村みよ子・長谷部恭男編『国家と自由・再論』（日本評論社）235頁
- 「猿払事件判決と憲法上の権利の「制約」類型」論究ジュリスト1号18頁
- 2013年 「表現の不自由と日本〈社会〉」奥平康弘・樋口陽一編『危機の憲法学』（弘文堂）287頁
- 「Lochnerと利益衡量論——Post Lochnerの法理論」早稲田大学グローバルCOE《企業法制と法創造》総合研究所編『企業と法創造』9巻3号79頁

「自民党改正草案と憲法尊重擁護義務」法律時報編集部編『「憲法改正論」を論ずる（法律時報増刊）』105頁

「違憲審査制の下での自由権制約の論証構造の現状と課題——高橋和之の問題提起を手掛かりにして」長谷部恭男・安西文雄・宍戸常寿・林知更編『現代立憲主義の諸相（高橋和之先生古稀記念）下巻』（有斐閣）145頁

2014年 “Major Constitutional Developments in Japan in the First Decade of the Twenty-First Century”, Albert H. Chen (ed.) *Constitutionalism in Asia In the Early Twenty-First Century*, pp. 52-75, Cambridge University Press

2015年 「古典的法思想とロックナー判決——ロックナー判決再読」岡田信弘・笹田栄司・長谷部恭男編『憲法の基底と憲法論（高見勝利先生古稀記念）』（信山社）63頁

「合憲解釈は司法の自己抑制の現れだと言えるのか？」松井茂記・長谷部恭男・渡辺康行編『自由の法理（阪本昌成先生古稀記念）』（成文堂）359頁

「憲法に対する愛着と懐疑」大島和夫・榊澤能生・佐藤岩夫・白藤博行・吉村良一編『民主主義法学と研究者の使命（広渡清吾先生古稀記念）』（日本評論社）227頁

2016年 「表現の自由③——表現の自由・市場・民主主義」判例時報2284号3頁（**）

「愛媛玉串料訴訟判決を振りかえる」論究ジュリスト17号61頁（**）

「違憲審査制（論）の現在と行方」憲法問題27号76頁

「「隔離」される集会、デモ行進と試される表現の自由」法律時報88巻9号106頁

2017年 「愛媛玉串料訴訟判決を振りかえる」長谷部恭男編『論究憲法』（有斐閣）165頁（***を収録）

「奥平康弘の表現の自由理論の一考察——原理論における奥平とチェイ

- フイーの距離」樋口陽一・中島徹・長谷部恭男編『憲法の尊厳——奥平憲法学の継承と展開』（日本評論社）139頁
- 「表現の自由③—表現の自由・市場・民主主義」判例時報 2344号臨時増刊『法曹実務にとっての近代立憲主義』69頁（**を収録）
- 2019年 「権威の文化と正当化の文化——日本の違憲審査制はグローバル化に耐えうるか？」判例時報 2390号 113頁（***）
- 「死刑における手続保障の重要性——比較憲法の観点から」法律時報 91巻 6号 98頁
- 「表現の自由に関する「アメリカ・モデル」の意味再考」山元一・只野雅人・蟻川恒正・中林暁生編『憲法の普遍性と特殊性（辻村みよ子先生古稀記念論集）』（日本評論社）451頁
- 2021年 「権威の文化と正当化の文化——日本の違憲審査制はグローバル化に耐えうるか？」判例時報 2475号臨時増刊『統治構造において司法権が果たすべき役割（第1部）』141頁（****を収録）

IV 判例評釈

- 1987年 「教育の自由と教科書検定——教科書検定第一次訴訟」時岡弘編『人権の憲法判例（第5集）』（成文堂）229頁
- 1994年 「わいせつ概念——「悪徳の栄え」事件」芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選Ⅰ（第3版）』（有斐閣）122頁
- 1998年 「インターネットにおける性表現の規制」法律時報 70巻 8号 100頁
- 2000年 「わいせつ概念——「悪徳の栄え」事件」芦部信喜・高橋和之・長谷部恭男編『憲法判例百選Ⅰ（第4版）』（有斐閣）120頁
- 2005年 「文学とわいせつ（1）——チャタレー事件」堀部政男・長谷部恭男編『メディア判例百選』（有斐閣）112頁
- 2007年 「わいせつ概念——「悪徳の栄え」事件」高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『憲法判例百選Ⅰ（第5版）』（有斐閣）118頁
- 2008年 「防衛庁宿舍へのポスティング目的での立入り行為と表現の自由」法学

教室 336号 8頁

- 2013年 「名誉毀損と事前差止め——北方ジャーナル事件」長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ（第6版）』（有斐閣）152頁
- 2018年 「文学とわいせつ（1）——チャタレー事件」長谷部恭男・山口いつ子・宍戸常寿編『メディア判例百選（第2版）』（有斐閣）112頁
- 2019年 「堀越事件と宇治橋事件について」法学教室 464号 15頁
「名誉毀損と事前差止め——北方ジャーナル事件」長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ（第7版）』（有斐閣）148頁

V 解説・教科書分担執筆など

- 1994年 「最高裁判所裁判官の任命と国会の関与」戸波江二・岩間昭道編『司法試験シリーズ憲法〔総論・統治〕』（日本評論社）145頁
- 1996年 「裁判所」奥平康弘・杉原泰雄編『憲法を学ぶ（第3版）』（有斐閣）298頁
- 2000年 「共生、リベラリズム、人権——憲法学はどんなことを考える学問なのか」一橋論叢 123巻4号 622頁
- 2001年 「松井茂記『二重の基準論』」（163頁）、「大沢秀介『アメリカの政治と憲法』」（256頁）、「切り札としての権利」（328頁）長谷部恭男編『憲法本41』（平凡社）
- 2003年 「ニュースをみて憲法を考えよう」法学セミナー 48巻5号 6頁
- 2004年 「憲法といっても法の一つなのだし、改正の手続だって規定されているのだから、改憲にそんなに慎重でなくてもよいのではないか」憲法再生フォーラム編『改憲は必要か』（岩波書店）71頁
- 2005年 「表現の自由と報道・取材の自由」（107頁）、「表現の自由と出版差止めの可能性」（114頁）、「表現の自由と選挙運動規制」（121頁）加藤一彦・只野雅人編『現代憲法入門ゼミ50選』（北樹出版）
- 2007年 「公私区分の多様性」学術の動向 12巻8号 40頁
「学部におけるディバートのすすめ」法学セミナー 52巻12号 4頁

- 2008年 「立川反戦ピラ事件最高裁判決批判——裁判所による管理の「親切さ」と「怖さ」」世界780号48頁
- 2009年 「文化に対する国家と援助と自由」前衛839号168頁
「憲法を改正することの意味」山形大学法政論叢44・45合併号47頁
- 2012年 「表現の自由」辻村みよ子編『ニューアングル憲法』（法律文化社）109頁
- 2013年 「憲法改正問題を考える」生活経済政策197号18頁
「自民党の日本国憲法改正草案について考える」生活協同組合研究454号49頁

VI 書評・文献紹介など

- 1992年 「Harry H. Wellington, Interpreting the Constitution - The Supreme Court and the Process of Adjudication, 1990」アメリカ法1992-2号287頁
「Laurence H. Tribe & Michael C. Dorf, On Reading the Constitution, 1991」アメリカ法1992-2号282頁
- 2009年 「木下智史・村田尚紀・渡辺康行編著『事例研究 憲法』」法学セミナー54巻1号132頁
- 2018年 「比較憲法研究としてのアメリカ憲法研究の意味と課題について考える——『ロバーツコートの立憲主義』」憲法研究3号215頁

VII 座談会など

- 2007年 齋藤純一・阪口正二郎「〔対談〕誰にとっての「自由」なのか」世界760号92頁
- 2009年 長谷部恭男・阪口正二郎・杉田敦・最上敏樹「〔座談会〕グローバル化する世界の法と政治——ローカル・ノレッジとコスモポリタニズム」ジュリスト1378号4頁

(210) 一橋法学 第22巻 第3号 2023年11月

- 2010年 北田暁大・阪口正二郎「〔対論〕自由が／自由を可能にする秩序」阪口正二郎編『自由への問い5 公共性』（岩波書店）1頁
北田暁大・阪口正二郎「〔対論〕自由な情報空間とは何か」北田暁大編『自由への問い4 コミュニケーション』（岩波書店）1頁
- 2011年 駒村圭吾・阪口正二郎・山本龍彦・大屋雄裕・谷口功一「〔座談会〕サッデル再読解／憲法と法哲学」法学セミナー 56巻5号 18頁
- 2013年 駒村圭吾・阪口正二郎・横大道聡「〔シンポジウム討論〕国家による文化芸術支援と「表現の自由」」『武蔵野美術大学造形研究センター研究成果報告書別冊 2008-2012 芸術と法』76頁
- 2014年 長谷部恭男・大野博人・阪口正二郎・杉田敦「〔座談会〕ポスト近代国家へ——国境・憲法・国家の構造転換」論究ジュリスト9号4頁
- 2015年 「「傍聴人に聞こえない証人尋問」国家賠償請求事件：一橋大学ロースクール人権クリニック」（吉田秀康・塚田育恵・渡辺康行との共著）法学セミナー 60巻11号

VIII 学会報告・講演など

- 1991年12月 「第一次大戦前の合衆国における表現の自由と憲法学」憲法理論研究会 1991年度12月例会
- 1993年10月 「現代日本の企業法務と法学教育——「法律社会」と「会社主義社会」」民主主義科学者協会法律部会 1993年度学術総会
- 1997年9月 「United States v. Virginia」日米法学会 1997年度総会
- 2001年10月 「アメリカ憲法学における民主主義論の動向と立憲主義の動揺——ポピュリズム、共和主義、リベラリズム」2001年全国憲法研究会秋季研究集会
- 2002年10月 「リベラリズムと討議民主政」第67回日本公法学会部会報告
- 2007年6月 「性表現と表現の自由——チャタレー事件を考える」日本ロレンス協会第38回大会
- 2010年9月 「憲法学と政治哲学の対話——リベラリズム、違憲審査制、権利」

第 75 回日本公法学会総会報告

- 2013 年 6 月 「報告に対するコメント——北アメリカの視点から」第 76 回比較
法学会ミニシンポジウム「人権の対話——「比例原則」の国際化
を手がかりに」
- 2015 年 9 月 「違憲審査制（論）の現在と行方」2015 年全国憲法研究会秋季研
究集会
- 2009 年 8 月 「戦後日本における違憲審査制」第 2 回アジア憲法論壇
- 2011 年 10 月 「Major Constitutional Developments in japan in the First Decade
of the Twenty One Century」The 4th Asian Constitutional Law
Forum